

第3回 大門まちづくり共創会議

日 時：令和7年8月28日 18時00分～20時30分

場 所：塩尻市市民交流センターえんぱーく 多目的ホール

参加者：別紙一覧表のとおり

次 第：①開会

②あいさつ（大門田川町区長 蟻川博之さん）

③グループトーク

(1)グループで意見交換 (2)グループの意見を発表

④アンケート記入、閉会

——以下、各グループのディスカッション内容の発表——

■Aグループ「人や商店のつながりを作る活動」

- ・大門商店街の歴史から議論をスタートした。当時は商店主同士の交流も活発であり、人の賑わいも活発であった。当時の賑わいを取り戻すのではなく、今あるポテンシャルで大門地区を盛り上げるにはどうしたらよいかという議論を行った。
- ・テーマを大きく分類すると、「学生」「大人の居場所」「外とのつながり（同窓会）」
- ・「学生」は、まちに対する熱意が非常に高い。大人の皆さんが志学館高校の生徒の居場所を作ってもらえれば、いつでも参加させていただきたい。物販、書道パフォーマンス、ダンスパフォーマンスも実施可能。
- ・「外とのつながり（同窓会）」は、この夏同窓会を企画した。同級生が60人ほどいる中で25人が集まり、LINEグループは48人が入ってくれた。市内にいる同級生も、市外や県外にいる同級生も、このまちへの関心は非常に高かった。共創会議の中から、同窓会という組織ができて面白いのではないかと思った。
- ・「大人の居場所」は、他二つのテーマ「学生」→「同窓会」というステージを経て、まちづくりへの意識や経験を積み、カフェなどの居場所を作れたらよいと思っている。

■Bグループ「多世代交流・居場所づくり」

- ・テーマBでは、やりたいことを具体的にしようということから、「誰を対象に」「何を」「どこで」という3つの項目で、それぞれの考えを共有した。
- ・様々な意見があったが、「誰を対象に」という点では、高齢者や高校生が多く挙がった印象である。また、移住者希望者を対象にしたいという考えもあった。

例1：「移住希望者」を対象に、「空き家を活用した住居や宿泊施設」を「大門商店街の空き部屋」でやってみたい

例2：「地域住民」を対象に、「コミュニティホール」を「大門三番町」で作りたい（作る）

など様々な意見が出た。

- 高校生が寄り道をせずに帰宅する姿を見て、本当に求められているものが何か、マーケティングすることが必要だという意見も出た。
- こんなにやりたいことがあって、やりたいと思っている人がいるのに、まちの賑わいが失われ、使える場所はあるそうだが使われていない状況にある。どうして実行に移せていないのか、例えば、法規制で利用しづらい、事業として成立しない等あると思うが、どうしたら、皆さんの考えを実行に移せるのか、議論する必要があるのではないかと感じた。

⇒今回の発表では、学生の話が出ていたと思うが、グループAでも同じように学生に関する意見が出ていた。グループ間で連携できる所は、連携していきたい。(高野)

■Cグループ「歩きたくなる仕組みづくり」

- マップ活用しよう：

外の人々が来た時に、買い物をした後どこに言ったらいいいのかというお客さんの声。その時に紹介できる場所があれば。体温が乗っかっている(どんな人がやっている)マップができるといいな。

- 街の歩き(歴史)：

中山道とこのエリアの歴史が伝わる、それを楽しめるような街歩き、マップ作りができたらいいいんじゃないか。

- 歩道と場の活用：

志学館の高校生商品開発を販売できたり、お店が出せたり、ほこみち制度を使って歩道にベンチを置いたり、植栽を置いたり、ぶどうを植わっていたり食べられたりするような場所を実験的に作ってみてもよい。

ビアガーデンの実現が大変だった。屋台を自転車にのっけて場所を占有しないで動きながらできるようなビアガーデンをやってみたい。

建物の中には人がいるのに、外に出すような仕組みができたらいいいな。

- 個人的に。マップを作りたいという意見があったが、ちょうど最近美須ヶ丘高校の高校生と一緒に作ったマップがある。横で見ていて感じたのは、マップがあることが大事じゃなくて作ること、その過程が大事。美術部の高校生が多かったのですぐ絵をかくてしまう。すごく楽しそうだった。
- 一回マップ作りをやると街の専門家になれる。そういう人たちが増えると街に愛着ができる。富士吉田で毎年高校生がマップを作っている。作ることが目的、価値がある。

テーマ：「人や商店のつながりを作る活動」

[illegible]

■ディスカッション

参加者 D：大門で衣料品店をやっている。今後もこの地で商売を続けていく中で、お店を続けていく以外に何かできることはないかという想いで参加した。

参加者 D：支援機関という立場で、大門エリアを活気があるエリアにできればと考えている。

事務局：ワクワクするまちづくりをしていきたい。

参加者 B：教師をしている。生徒たちのまちづくりに対する意識は高く、生徒とまちをつなげて上げられたらと思っている。

参加者 C：出身は洗馬だが、親の代から大門で商売を行っていた。今年で 60 歳になるがため、大門商店街が賑わっていたころも経験している。まちの皆さんをどう応援していくかという視点で参加している。

参加者 A：オープンして 1 年少し経過し、常時 6 名が滞在し、ゲストとしての宿泊は 200 名を超えた。宿泊する場と商店街をつなげ、大門商店街がより盛り上がってくれればと思い参加した。

参加者 E：実家はえんぱーくのすぐ近くで、この夏同窓会を企画した。同級生が 60 人ほどいる中で 25 人が集まり、LINE グループは 48 人が入ってくれた。市内にいる同級生も、市外や県外にいる同級生も、このまちへの関心は非常に高かった。

ファシリ：今回の会議の目的として、人と人、お店とお店をつなげること、このまちを良くしていくことである。皆さんの意見を聞く前に、参加者 C さんにこの街の歴史から話していただきたい。

参加者 C：幼少期の頃の大門商店街は、様々な業種の店、いわゆる個人経営の専門店が多く、大変賑わっていた。品物もそうだが、店主のキャラクター目当てに来店する人も多かった印象である。商売人も同世代が多かった。人通りも週末は特に多かったが、日用品の買い出しで平日も人が歩いていた記憶がある。

参加者 B：駅の移転は何か影響があったのか。

参加者 C：当時は商店街の中に駅があったため非常ににぎわっていた。

事務局：昭和 57 年に現在の位置に移転している。当時、消防団に所属していたが、30 人程度いた中の 20 人ほどが商店街の方で、市役所から消防団に所属したのは私が初めてであり、当時は商店街の方の勢いがすごくておっかない方もたくさんいた。

ファシリ：当時は何店舗くらいのお店があったのか。

参加者 D：200 店舗くらいだったと聞いている。

事務局：週末や年末年始は歩けないくらいの賑わいで、1 日 300 万円売り上げる店があったと聞いている。1 日 100 万円は当たり前であった。路線バスも多かったため、車が当たり前ではなかった当時は周辺地域の交通結節点であった。

ファシリ：全国のいろいろな街を見ているが、大体同じような流れで寂しくなっている印象

である。自動車の発達や郊外に大型商業施設ができたことにより、かつての中心市街地が衰退している。しかし、現状から当時のように戻すのは難しい。今ある素材を使ってどのように盛り上げるかが重要である。また、大型店やナショナルチェーンに対抗するわけではなく、この街や、商店街の方々が持つ個性や魅力をどのように向上、発信するかが重要である。

参加者 A：この共創会議は実際に動き出しているが、商店主同士が一堂に会して交流する場がない。意外に個性的なお店が多く、映画館や銭湯、飲食店など、今の商店街でも十分に 1 日過ごして楽しむことができる。マルシェも良いと考えるが、今の商店街で 1 日過ごしてもらえて、日常にも波及できるようなイベントを実施したい。また、学生、会社員、市外の方でも、この共創会議に誰でも入ってきてくれたらと考えている。そういう方々がスモールビジネスをできるような低家賃の物件や補助制度が出来たらよいと考えている。

ファシリ：今の塩尻市の家賃相場はどのくらいなのか。

事務局：安いところでは 5 万円程度で借りられるが、改装等が必須になる。居抜き物件だともっと高くなる。

ファシリ：商店街組合などの組織はあるのか。

参加者 D：あるにはあるが、集会があっても 2・3 人程度しか集まらず、かつて商店街の最前線で頑張っていた方たちも、あとは任せるとするようなスタンスであり、組織としてほとんど機能していないのが現状である。

参加者 C：何社位所属しているのか。

参加者 D：昔は 30 以上あったが、今は 20 くらい。名簿にも分からない名前があったり、商売を引退したりしている方もいる。

事務局：かつては商店街組合がイベントを引っ張っていて、ハロウィンなどは大盛況であった。

参加者 D：今は 1 万人程度がハロウィンに来ている。

ファシリ：参加者 B 氏にお伺いしたいが、生徒は商店街に来ているのか。

事務局：高校生が運営できるような場所を街カンとして用意したいと考えている。

参加者 B：勉強会にあった、できるところから始めるということを踏まえ、常時ではなくイベントの際に出店できたらと考えている。土日や、歩行者天国のイベント時に出店したいと考えている。生徒が商店街を利用するかという質問について、調査したわけではないが、基本的にジュースやお菓子の購入はコンビニを利用してしまふ。

事務局：出店はどのようなものの販売を考えているのか。

参加者 B：ワインカステラやおやきの出店実績はある。冷凍できたり、賞味期限が比較的長く取れるものを考えている。

事務局：学校で作って販売するのか。

参加者 B：ワインは作っているが、加工は外注している。

ファシリ：そのような活動は部活動で行っているのか。

参加者 B：授業として行っている。土日の活動は有志で行っている。歩行者天国が大盛況なのは、駐車場が 6 時間無料というのが大きく寄与していると考えている。車で来るのが当たり前なので、無料で駐車できるのはありがたい。他には、書道部によるパフォーマンスの機会も作って上げられたらと思っている。

ファシリ：学生時代の思い出が、このまちを盛り上げたいという気持ちの醸成に必須だと考えている。参加者 B 氏に挙げていただいたテーマはぜひ実施してあげたい。

参加者 D：大門商店街の思い出は、小学校の時の社会科見学である。洗馬駅から電車に乗って塩尻駅で降りて、4 人程度のグループで商店街を歩くという内容であった。いろいろなお店にインタビューしたり、お店を見学したりさせてもらった記憶がある。

参加者 E：この夏に同窓会を企画したら、同級生 60 人のうち 25 人に集まってもらった。どうしても来られなかった人もいたが、LINE グループは 48 人入ってもらうことができた。現在市内に住んでいるか否かにかかわらず、この街への関心は非常に高く、熱い思いを持っていることが分かった。また、今回の同窓会以降、同級生の近況が分かって気軽に連絡を取れるようになり、また集まる約束が決まっている。

参加者 B：エヌイチ道場に関する打合せに参加し、どのようにしたら参加人数が上がるかなどを話し合った。

参加者 D：私が小さい頃は、イトーヨーカドーにもたくさんの店主がいた。大門商店街も賑わっていて、買い物をしに松本に行くということではなかった。横のつながりも強く、みんなで商店街を盛り上げようとしていたのは子どもながら感じていた。

ファシリ：先ほどの参加者 E 氏のご意見から、同窓会専用ラウンジを作ってはどうか。

参加者 E：同窓会に必要な時間、キャパ、機材が判明した。場所さえあれば私の代に限らず手軽に同窓会を開催できる。西小学校の教頭先生にも相談している。私の代あたりがちょうど市内に戻ってくるか来ないかがある程度ははっきりする年代だと思っている。同窓会をラウンジで開催し、二次会、三次会とまちの店を利用する機会にもつながると考えている。

ファシリ：今日の会議は共創会議であるが、派生として同窓会の枠組みがあっても面白いかもしれない。

参加者 B：昨年の夏に、市内ではないが母校の高校のクラス会を行った。高校生でもそのようなつながりがあるため、小中学校のつながりはさらに大きいのではないかと。今日もえんぱーくの駄菓子屋さんに小学生がたくさんいた。そのような場所を増やしてあげられたらと思う。

参加者 B：観光井客に対してのアプローチは考えないのか。

ファシリ：いずれは必要であるが、今の段階では地元の繋がりづくりが重要であると考えており、次のステージだと考えている。

参加者 D：五千石茶屋付近で良く外国人観光客の姿を見る。すごく良いことだと思うが、屋外で楽しんでいる観光客に対して騒音などのクレームが発生しているのも事実である。

参加者 E：ダイバーズのマスターと話したときに、昔は扇横丁という名称でチェーン店なども入っていたという話を聞いた。音楽を楽しんだりするイベントがあっても良いかもしれない。

参加者 D：街を俯瞰的に見ると、すごく良いお店が多いように感じる。現在住んでいるのは広丘だが、広丘駅付近には飲食店が数店しかない。それなのに、衰退したイメージがあるのはなぜなのか。

ファシリ：Cグループで議論しているマップ作りと重なるが、全体のマップではなくジャンルごとにマップを分けても良いかもしれない。ラーメン屋マップ、ペット同伴OKマップなど。

事務局：マップを作る際に、「商工会議所」などのクレジットが入るといろいろな意見が出るが、市民の有志団体である共創会議で作れば何のしがらみもない。

参加者 B：ペット同伴OKな店はあるのか。

事務局：思い当たらない。関東の方はどうか。

ファシリ：たくさんある。公園やドッグランの近くにあることが多い。

参加者 B：ペットを散歩している人を多く見かけるので、同伴OKな店。

テーマ：「多世代交流・居場所づくり」

[illegible]

■ディスカッション

参加者 B：生まれも育ちも塩尻、学生の際は東京に出ていたが事情で塩尻に帰ってきた。役所に就職し、定年まで勤めた。大門をもっと活気のある街にしたいと思っている。

参加者 C：出身は旭村。交通安全教室、交通教育を行う NPO 法人交通教育とらふいっく Sister の活動もしている。母が塩尻出身で、塩尻には子どもの頃によく来ていたが、子ども心に寂しいまちだと感じていた。買い物に行くときは、塩尻と松本が選択肢に挙げられ、いつも松本を選んでた。母の希望で塩尻に移住してきた。母は他界したが、今も住み続けており、塩尻のまちがもっと盛り上がることを期待している。父が、塩尻に行く場所がないと言っていた。父は、ウイングロードのデリシアに毎日座っていた。高齢者向けの場所を紹介いただいたが、父がそこへ行くことはなく、自分が行きたい時に行ける自分の居場所が欲しいと言っていたことが心に残っており、そうした場所を作りたい。

参加者 A：今回、興味のあるテーマとして「多世代交流」と「歩きたくなる仕組みづくり」を選択した。グループを移動しても良いとのことだったが、歩きたくなるまちにするには、居場所、溜まる場所が必要だと考え、このグループに残ることにした。

参加者 H：普段は福祉の仕事をしている。大門で生まれ、大学で県外に出たものの就職で塩尻に戻ってきた。生まれ育った場所である大門地区には思い入れがある。業務で地域の方々と係わる中で、空き家、少子高齢化、地域のつながりが減っていることが課題だと感じた。今日は、障がいがあってもなくても働ける場所を作ることが出来たらと考えて参加した。

参加者 F：今回初めて参加したが、ゆるく楽しくという言葉にがっかりした。もっと真剣に考える場だと思っていた。ゆるく楽しくも悪いことではないと思うが、それでは何も変わらない。人も会社も情報で動いている。もっと真剣になって取り組んでほしい。仕事は楽しいものだが、それでは話し合うだけで終わってしまうのではないか。もうちょっと緊張感をもって取り組んでほしい。塩尻は、全国、世界に情報を発信する手段がない。情報が一番大事。正しい情報を発信していく必要がある。

参加者 D：塩尻市の堅石にある設計事務所に勤めている。出身は、神奈川横浜市。生活と仕事が近い環境で働きたいと考え、大学卒業を機に、地方への移住を決意した。いまは松本に住んでいる。建物を作ることは、まちを創ることである。設計者として責任をもって地域に関わっていききたい。

参加者 E：生まれは東京。大阪で働いていたが、6年前に塩尻に移住。スナバを中心に活動している。株式会社を立ちあげた。大阪に住んでいたころは、人とかかわりが使い捨てのようになっていたが、塩尻では、いろいろな人と一緒に時間をかけて試行錯誤することができる。共創会議は、今までかかわりのなかった人とつながることができる、いろいろなことを始めるきっかけになっている。

参加者 G：普段は横浜に住んでいるが、二地域居住の生活をしており、月の半分くらい塩尻にいます。共創会議で移住者がしやすい場づくりができればと考えています。まずは、建物1棟を作るということではなく、異世代ホームシェア、空き部屋を活用して宿泊できる場所づくりを考えています。土日に塩尻を訪れると、市役所が閉まっていて、誰に話を聞けばよいか分からない状況だったが、最近は、マルシェが開かれ、移住者目線では有難く思っている。仕事等の都合で土日しか時間が無い人に対して、マルシェのように、土日でもまちを訪れたい場を作ることができればと思う。

ファシリ：皆さんの考えを出来るだけ具体的に共有するため、「誰を対象に」、「何を」、「どこで」の3つの軸で、皆さんが考える“やりたいこと”を整理する。

参加者 D：空間や建物を作る仕事をしているので、事業や商いをしたい人を対象に、アイレベルの空間を豊かに作りたい。1階レベル・アイレベルの空間づくりは、まちづくりを考えるうえで重要なことだと感じている。大門商店街などで何かをやりたい人が、単に箱モノを作るのではなく、設計者・建築家と共に、より良いアイレベルの空間造りをするのがまちの為になると思う。あとは、良い建築を増やしてよい街並みを作りたい。勤めている設計事務所に相談しに来る人がいるが、大門商店街で事業やりたい人とつながり、アイレベルを意識した良い建築、良い街並みを作っていきたい。

参加者 H：障がいのある人や、引きこもりがちの方が働ける場、居場所を大門商店街に作りたい。また、その居場所では、まだ働く前段階の人が、いろいろな経験を積むことができる場所にもしたい。塩尻に限らず、人手が不足している企業は、少なくないと思うので、様々な企業から仕事を受託して、デスクワークをすることが出来る場所を作りたい。ドーナツ屋さん、スタバの様なおしゃれなカフェをつくったり、お茶会を開いたりして、障がいのある方、引きこもりがちの方がまちなかで憩う姿を見たい。

参加者 A：対象は、多世代とした。世代を限定せずに、普段話をしたことない人と世間話をするところができる場所を作りたい。場所は、まちなか。建物の中ではなく、木陰などのオープンな場所が良い。その場所があるから、まちを歩くと楽しい、まちを歩きたくなるという場所を作りたい。

参加者 G：考えていることが2パターンある。移住希望者を対象に、大門商店街の空き家や農家住宅の空き部屋を活用して、住居や宿泊施設への改修をやりたい。大門商店街の空き家活用は、商店街に人を呼び込む効果があると思う。また、農家住宅の活用は、スポット的に収穫期の人手不足を解消することにつながると思う。旅行者・移住者を対象に、漆器やワイン等を扱うお店を出したい。観光客向けの商品を扱うのではなく、地元の人がおすすめる本当の特産品を扱うお店を大

門商店街につくり、来店した方の中に、扱っている漆器やブドウ等に興味を持つ人がいれば、産地を紹介し、実際に行けるようにしたい。

参加者 C：考えていることが複数ある。高齢者を対象に、大門の中に、花とか緑があって、飲食や話ができる場所を作りたい。子どもたちを対象に、子ども食堂をやりたい。子ども食堂自体は、やっている地区もあるが、大門商店街の飲食店の協力を得て、地区の枠を超えた、大きな子ども食堂をやってみたい。地区単位の子どもの食堂だと、同じ小学校に通う子どもしか集まらないが、塩尻市全体の子どもたちが利用できる子ども食堂をやってみたい。夏休みで給食が無くなると、夏休み明けに瘦せて登校する子供がいる。場所は大門が良いと思う。高校生を対象に、お弁当支援をしたい。昨今、米などが高騰しており、安価で買えるお弁当を売って支援をしたい。お弁当作りには、障がいのある方にも仕事として係わってほしい。場所は必ずしも大門ではないかもしれないが、どこか使える場所がないか探し始めている。

参加者 B：高齢者を対象に、うだうだ集まれる場所を作りたい。具体的に用途を挙げるとすれば、カフェかもしれない。ひとまず、人が集まり、愚痴をこぼし合える場所を作りたい。家でうだうだするのも良いが、たまには外に出て、他の人と話すことで何か生まれることもあると思う。場所は大門商店街で考えている。高校生を対象に、高校生が集まれる場所を作りたい。用途はカフェかもしれないし、ゲームセンターでも良いと思う。ひとまず高校生が集まれる場所を大門商店街に作りたい。小中学生を対象に、子ども食堂を作りたい。しかし、「子ども食堂」という名前では、偏った見方をされることがあるため、単なる「食堂」を大門商店街に作りたい。自分一人で子育てをしなくてはならず悩んでいる人が増えている。そこで、子育て世代、主婦を対象に、子育て経験者や助産師等に相談できたり、子どもを預けたりできる育児支援施設を作りたい。場所は、役所の近くが良いと思う。一般住民を対象に、大門にマンションを作りたい。なぜ大門にマンションが無いのか気になってデベロッパーに話を聞いてみたが、役所からの要望が無いから作れないとのことだった。人が住める場所を作って人口を増やしたい。

参加者 E：小学生（特に、西小学校）の子どもたちを対象に、ものづくりのワークショップをやりたい。普段、駄菓子屋に多くの子どもたちが集まっており、特に夏休みはにぎわっている。ゲームをやったり、スマホを触ったりする子どもがいるが、それは暇だからだと思う。自分たちでもものづくりをする機会があれば、有意義だと思い、ワークショップを駄菓子屋でやってみたい。高齢者を対象に、何をしたいのか、何が欲しいのか聞いてみたい。以前、うどんを出さないのかと聞かれたことがある。おそらく、レストランほどの料理は求められていないと思うが、冷凍うどんの様な手軽な食事を求められているように感じている。何を求められているのか、具体的に分かっているわけではないので、まずは話を聞いてみたい。

えんぱーくで、いろいろやっているが、中で何かやっても外まで伝わりづら
いと思う。テラスを使ってお茶会等を開いてみると、楽しい雰囲気になるのでは
ないか。

参加者 F：塩尻は、塩尻だけを対象とするのではなく、松本や諏訪等近隣の地域からも人が
来る店をつくる必要があると思う。地域住民を対象に、コミュニティホールを作る
予定である。そのコミュニティホールには、子ども食堂ではなく、お年寄りを
対象に、音楽を聴きながら食事する場を作る。また、手芸や絵、写真などを展示
する展示会の開催や、チャレンジしたい人が出店できるレンタル食堂を作る予
定である。既に図面は出来ており、大門三番町に建てる予定である。

ファシリ：今回、大きくは、高齢者を対象にした居場所づくりをしたいという考えと、子
どもたちを対象にした居場所づくりをしたいという考えがあった。また、障がい者
が活躍できる場を作りたいという考えもあった。その視点も必要だと思う。今回、
皆さんの考えを共有したことで、共通のターゲットが見えてきたように感じた。
また、大門商店街の中に、いろいろなことに使える居場所作りをしたいという考
えを、皆さんがお持ちだと感じた。その居場所づくりは、空き家活用かもしれな
いし、新しく建物を建てるのかもしれない。参加者 F さんが建てる予定の建物
に、ドーナツ屋やカフェを作る等、それぞれが考えていることや、取り組もうと
していることが繋がってくるかもしれない。単に、この共創会議に集まるだけ
でなく、是非繋がってほしい。それぞれの考え等について、何かコメントは
あるか。

参加者 A：もし可能なら、参加者 F さんの作る予定のコミュニティホールの一部を使わせ
て欲しい。

参加者 F：ぜひ使ってほしい。先ほど、高齢者の行く場所がないという意見もあったが、コ
ミュニティホールの2階には、音楽を流して、うだうだと集まれる場所をつくる
予定である。2階の運用は、別の方に任せる予定になっており、その方と話をし
てほしい。

ファシリ：今日、駅前のカフェにいたが、夕方、高校生が一直線に駅に向かっていくのを見
て、子どもたちが寄れる場所があると良いなと感じた。ゲームセンターでも良い
かもしれないが、保護者が不安に感じる恐れもあるため、他のものも考えたい。
自分が高校生の時は、寄り道しながら帰っていたが、塩尻にもそういう場所があ
ると良いのではないか。

参加者 A：えんてらすには、勉強している子どもたちがたくさん集まっている。高校生を一
つの集団としてみることは出来ない。いくつかの集団に分かれていて、それぞれ
の集団で行動している。えんてらすに来ている人に聞いてみたら、わざわざ松本
から来て、松本に帰るといった人がいた。他にも、スケボーをやりたい等、最近の
高校生は行動が多様化しており、これを作れば高校生が来ると勝手に想像して

作っても実際に集まってもらえるか分からない。何があれば子どもたちが来るのか、駅前を歩く高校生やえんぱーくの利用者等にリサーチをしてはどうだろうか。

ファシリ：先ほども、高齢者に考えを聞きたいという意見があり、今も、高校生の考えを聞いてみてはどうかという意見があった。改めてマーケティング調査をやると良いように感じた。すべての答えではないかもしれないが、何かのヒントにはなると思う。

参加者 D：今回、共創会議に参加してみて、まちに元気がないと感じている人、もっと良くしたいと思っている人が多くいることを実感した。一方で、何かをやりたいと思っている人はこんなにいるのに、なぜ実行に移れていないのだろうかという疑問に感じた。誰が後押しすれば、実行に移っていくのだろうか。

ファシリ：まちには、使える空き家、空き店舗はあるのだろうか。

参加者 E：空き家・空き店舗を活用したい時は、しおじり街元気カンパニーに相談している。

事務局：使える空き家・空き店舗はたくさんある。一般の住宅として利用することは出来るが、商業利用しようとする、消防法や旅館業法等の規制があり、すぐに使えるわけではない。

ファシリ：空き家・空き店舗を活用して、例えば、1階部分にうだうだ出来る居場所をつくり、それが外からも見え、通りがかった人も入りたくなるような設えになっていると良いのではないか。今回の話を聞くと、マーケットはいるように感じた。

参加者 F：塩尻では、近隣のまちからも人が来るような魅力のあるお店にする必要がある。例えば、塩尻でドーナツ屋をやろうとすると、1日8万円の売り上げが必要だが、2万円も売れないと聞いた。ミスタードーナツが出店する話もあったが、実現しなかった。

ファシリ：出店者にとって塩尻は、マーケットが小さいということか。

参加者 F：そういうことになる。

ファシリ：ドーナツ屋が成り立つマーケットをどのように作るか、という発想が必要だと思う。

Cグループ議事録

テーマ：「歩きたくなる仕組みづくり」

■模造紙

MAP

・歩道の入り口は、歩行者の目印になるように、目印を付ける。	・歩道の入り口は、歩行者の目印になるように、目印を付ける。	・歩道の入り口は、歩行者の目印になるように、目印を付ける。
・歩道の入り口は、歩行者の目印になるように、目印を付ける。	・歩道の入り口は、歩行者の目印になるように、目印を付ける。	・歩道の入り口は、歩行者の目印になるように、目印を付ける。
・歩道の入り口は、歩行者の目印になるように、目印を付ける。	・歩道の入り口は、歩行者の目印になるように、目印を付ける。	・歩道の入り口は、歩行者の目印になるように、目印を付ける。

まち歩き、まちの歴史

・まち歩き、まちの歴史	・まち歩き、まちの歴史	・まち歩き、まちの歴史
・まち歩き、まちの歴史	・まち歩き、まちの歴史	・まち歩き、まちの歴史
・まち歩き、まちの歴史	・まち歩き、まちの歴史	・まち歩き、まちの歴史

歩道や場の活用

・歩道や場の活用	・歩道や場の活用	・歩道や場の活用	・歩道や場の活用
・歩道や場の活用	・歩道や場の活用	・歩道や場の活用	・歩道や場の活用
・歩道や場の活用	・歩道や場の活用	・歩道や場の活用	・歩道や場の活用

■ディスカッション

ファシリ：付箋にやりたいことを記入。一人ずつ発表していく。やりたいことを聞くと、自分が考えていることと近い人がいると思うので、「これを組み合わせたらイベントになるんじゃないか」という案が出る場にしたい。何かをやるときに誰を対象にするかを考えるとよい。その人たちにやるためにはどういうことをやらなくてはいいか（課題等）を結び付けて、自分ならどういう解決策を取れるか考えてもらおうと、考えやすいと思う。カテゴリー分けをするために、一人ずつ付箋に書いた内容を発表してほしい。

参加者 A：学校の総合研究という授業で、高三の子が一人学校から駅までの地図を作りたいといっている。歩いてみて何があるか白地図に書き込む。自分が魅力に感じているところ、路地に入ると何があるのかなどを書きたいと。手書きがいいのかパソコンがいいのかなどを研究しながら作っていく予定。ただ課題が、作ったらどこにもっていくのか、置いておくのか。高校生視点で作ってみるマップは面白いのではと思うので、どうにかできないか商品。開発も学校でやっている。ワインカステラ、ワインおやきなど。それを販売するような場所がもっとあるといい。玄蕃まつりとか。歩行者天国があるなら頻繁に出たい。固定店舗は難しいと思うので、気軽に売りに行けるような場所だと面白い。

ファシリ：マップ、高校生が活動できる場づくりということかな。

参加者 B：マップの関係。マップ自体はすでに作ったやつがあるが結局活用されていない。おいてあるところが少ない。店先に QR コードを貼っておいて、スマホで読み取るとお店の情報が出てくるような仕組みはどうか。五千石茶屋は最近外国人のお客さんがたくさんいる。外国人が英語で説明を見られるようなシステムがあればより街ブラをしやすいのでは。

参加者 D：Facebook で飲食店の情報を個人的に発信することが多い。その時、お店の場所を説明するのに適切な地図がなかったので、個人的に使うための地図を作った。塩尻以外のところからきてくれるお客さんがいる。お店のためだけに来てくれた人に、他のお店に寄ってもらうことはできないかと考えている。店主の私からのおすすめだから（SNS とか Google よりも）実際に行ったことのある利用者の意見で勧めることができる。体温を感じるおすすめっていう方がウケがいい。どうせマップを作るならそういう体温を感じられるような渡し方をするとか工夫をしたい。例えば顔写真を入れて、文字だけが並んでいるよりも読みたくなる、親しみを持てるようなものとか。行政の作ったお行儀のよい地図ではないものができればいいな。お店に遊びに来たお客さんにいろいろ地図を渡すと、紹介しているお店の電話番号を入れてほしいと言われる。とりあえずは自分で作った地図を、そのように充実させていこうかな。すぐ簡単に着られる浴衣が欲しいという人が松本からきてくれた。その人は呉服屋と言えばまずは松本で探し、

次に安曇野で探したという。塩尻にあると思わなかったと。塩尻の商店街は中信地区の中でお店を探すとき、最後の選択肢になっている。そういう商店街になってしまっている。その現状は知ったうえでいろいろ進めていかないといけない。口コミを各お店で勧めあっていくような、それくらいでもいいくらい。

ファシリ：松本には呉服屋さんがなかったということ？

参加者 D：あるんだけど、求めている服がなかった。今までは井上百貨店で小さなメーカーの着物とかも売っていたのだが、井上がなくなったので手に入らなくなってしまった。小さなお店だと希少なものを置くスペースがないので売れない。百貨店がなくなるとそうになってしまう。

参加者 E：塩尻市内を友達と一緒に散策（ポケモン GO）したい。今までの話の中だと、マップに近い話題かもしれない。普段イベントは松本でやっている。塩尻でもやってみたいと思っている。その際歩いてゲームを楽しんだついでに飲食店に行くなどをしたい。でもどこに行ったらいいかわからない。ただゲームをして遊ぶだけで終わりではなく、次のお店を紹介できるとよい。マップがわかってくるとそれができる。市内にどういう店があるのかを把握出来たら、イベントの開催時に SNS へ一緒に掲示して、イベントのついでに行けるようにできたら。

ファシリ：自己紹介の時にポケモン GO の話をしていたが、やりたいのはポケモン GO？

参加者 E：そう。イベントをいつやるかはポケモンの公式の方で決まっている。場所としては今だと松本駅前とか寿がメイン。それを塩尻でやりたいと思っている。ゲームの中では、実際に街の中にある構造や歴史のオブジェとかが目印になる。そこに集まってポケモンを収集するので、その先にその歴史や建物の説明をすることもできる。

ファシリ：塩尻でレアな奴が出てくるのという感じ？

参加者 E：「今日イベントをやるとこのキャラが出るよ」が決まっている。やりやすいのは市街地。交流はあまりない。レアキャラが出るような本気で挑むものとは違って、緩いイベントの時だとゲームだけではなく仲間と街を散策したり飲食店行ったりコミュニケーションが図れる。塩尻市内でやれたらいいな。

参加者 I：塩尻のマップを作りたい。SNS でお店の宣伝をしている。客が塩尻の人というよりも、周辺市町村、県外の人が旅行がてらグーグルマップで調べて見つけてきてくれたとかが増えてきた。来てくれた人に、大門商店街周辺のいろんなお店に立ち寄ってもらって塩尻という街を知ってもらう、お金を使ってもらうような仕組みを作るためにマップが必要。お昼とかカフェを聞かれる。ゆっくりしてもらえない場所がないから心苦しい。フリーで使える休憩スペースもあったら面白い。商店街を歩いていると夏場は日陰なくて子どもとかお年寄りとか嫌になる。そういう場所が必要だなと思う。

ファシリ：駒ヶ根がまさにそうだった。もっと街が小さい。カフェがない。どうしようとな

って、自身のお店の中に休憩処をみんなに作ってもらった。カフェじゃなくてただ座ればいい。誰にでも、お店で買う買わない関係なく外に一部だけ開放されている場所を作ってもらった。そういう場所があると座る人が現れる。そうすると商店主は自分で金もうけのために、そのお店の一角で飲めるようなお茶を提供するようになっていく、みたいなプラスの仕組みができた。誰かに作ってもらいたいではなくて自分のお店の中でできそうなことを考えてみてほしい。

参加者 I：ちょっと前までお店の前にイスは出していた。しかし人が通らない

ファシリ：誰も通ってないのに椅子を置いても…とみんなが言う。でも一人がやってくれるだけで大きい。

参加者 B：それならその辺にキッチンカー呼ぶのがいい。移動型じゃなくて固定の場所でキッチンカーをやればいい。

ファシリ：でもそれは誰が呼ぶのかという話になる。

参加者 D：お店で休めるようにするのはよいと思う。うちは来てくれた人にコーヒーを出すようにしている。やりたいよね。

参加者 J：大門商店街の歩道の管理は県。県道の歩道にパラソルで椅子とかを置くことはできるのか。

ファシリ：申請を出せば可能。ほこみち制度という制度を使うと、その警察協議が楽になったりする。でもほこみち制度で道に恒常的に何かを置くとなると、その置いているものを管理する団体が必要になる。塩尻でいうと街カンとか。街カンが管理者として一元管理するという名目で申請が取れば、商店主はいちいち申請を出さずともパラソルを設置できるようになる。

参加者 J：自分の敷地内に置いている人はいる。県道とか市道でそれができそうな枠組みができればよい。

ファシリ：ウォークブルの話をしていると、ほこみち制度の話は出てきがち。ただ最初の協議のところがハードルが高すぎて、結局実現しないことがほとんど。検討の余地はある。通過する街から歩ける街にしたいという話になると、歩きやすい空間づくりは重要。歩道空間をどうするか。その管理を一元でできるところがあるかどうか。大きい街だとまちづくり会社が管理を担うことが多い。小さい街だと担い手がおらずできない。塩尻はまちづくり会社として街カンがあるので、そこが一元管理者になればよい。

参加者 D：以前、のるーとのバス停に椅子を置けないかという話を、バス停の前のお店の方と話したことがあるが、結局道路の管理者が県だからと却下されてしまった。自販機もないし日陰もないし、休むところがないのはよくない。

参加者 J：ほこみち制度を使って成功している事例はある？

ファシリ：国のホームページで成功事例をまとめている。静岡はほこみち制度を活用してまちづくりしている。ただ、歩道にものを出したせいで歩行者と接触してしまった

りすることもある。その調整が難しすぎて、なかなか小さな自治体でやるのは難しい。

参加者 J：歩く人からしてみたら、正直イスやテーブルがあっても歩行に問題はないのにね。
ファシリ：とりあえずほこみち制度というのは、本来外にものを置きたい店舗が一店舗ずつ申請を提出しなくてはいけないところを、一元管理で申請できるようにするという制度。

参加者 D：歩道が歩きやすいかという話でいうと、雪かきについても問題がある。今は商店街の歩道の中でも、雪かきがされているところとされていないところがある。

参加者 J：もしほこみち制度で街カンが管理者となったとすると、道路の雪かきも街カンがやるのか？

ファシリ：いや、街カンが管理することになるのは、あくまで外に置いた物のこと。雪かきは違う。

参加者 D：お店によって人手不足とか高齢化で雪かきができないところがある。そういう時、ボランティアをやりたい高校生などに頼むことはできないのか。クラブ活動みたいに雪かきする仕組みを作ってもらってご褒美に商店街の人が何かを上げるとか。

参加者 H：西部中がやっている。チケット対価を得て雪かきとか剪定とか。

参加者 F：歴史と関係のあるようなマップを作りたい。表の通り（大門商店街）とは違うところが対象になってしまうかもしれないけれど、歴史ネタは学術的にも評価が高まってきている。（街の歴史を）知る、知っているということはプラスの価値になる。

ファシリ：マップ作りの中で歴史ネタがよくある。ほかの町で昭和レトロというテーマでマップを作った。今までにないマップを作りたかったので、昭和レトロなお店を紹介するマップを作り、それに関する歴史を語り部がいて語っていくという街歩きツアーまで作った。

参加者 F：歴史と言えば塩尻には中山道があるが、商店街とは少し場所がずれているので、その二つをつなげるのには苦心している。中山道は中山道でもっと盛り上げられる。そっちが活発になれば商店街への展開も考えられる。明治以降の歴史に注目すれば商店街にもいろいろある。まだ情報を整理している途中。ただ正直、その歴史の内容がどれだけおもしろかという点、「なるほどね」で終わってしまうところもある。近世以前の歴史の方が人の目を引くのは仕方ない。

参加者 G：日陰がないので日陰になるようなものを作ったらいい。ぶどうを街の中に増やしてぶどう棚で日陰を作るなど。ぶどう棚の管理やお金の工面については、観光客とかに出資してもらって、出資してくれた人の名前を公表したり、収穫に来てもらって手伝ってもらったりとかが考えられる。昔塩尻のまちづくりについて話合うイベントがあった。若い世代も一緒になって街の課題とかを話し合う場

があれば、街への知識も身につけて、商店街で仕事をしてみようと思う人も出てくるかもしれない。

ファシリ：共創会議がそういう場所になっていけるといいなと思う。塩尻駅西口のマンションの前の道にはぶどう棚があった気がする。県外の人間からすると街路樹的にぶどうが植わっているのはすごいと思う。

参加者 F：あの辺は昔ぶどう棚をやっていた人が地主だからね。

参加者 J：最近お店の集約が進んできて面白いお店や拠点ができつつある。仕組みづくりより集約集積。ゾーン分けが大事。地区ごとにテーマを決めればそれらを紐づけることができる。マップを作るならテーマを様々分けて、手作りで作りたい。下諏訪の例を見ると小路が多くてお店をまとめた手作りのマップを置いてあったりする。それを見ながら町外から来た人が散策している。気に行ったお店に言って食事をするか。小路が面白い。塩尻は道路の整備が進んでいるので小路は少ない。

ファシリ：歩ける街づくりにおいてマップっていう意見が多く出てきている。一つのテーマになるかも。

参加者 C：塩尻は建物の中には人がいる。それをどう外に出すかが課題。人が外にいる姿を見せることが必要。誰も歩いていないと歩かない。人がいるとそれだけで「何かあるのか？」と興味を持ってくれる。ほこみち制度の話があったが、恒常的な設置ではなく期間限定だと（申請が）通りやすいので、既存の電灯のふもとにベンチと植栽を置くなどはできないか。植栽もただの草ではなく、トマトとかぶどうとかにする。植栽があるとつい手を出したくなったり、トマトならちょっと食べてみたくなったりする。休憩スポットについては、実験的に一つだけ設置してみるのが良い。いきなり全部やると大変だから、今回はここに設置、次回はあるところに設置、など場所を変えてやっていくとか。自分ができる事は何かを考えてみると、昔イベントで使ったビールサーバーを持っている。それを使って移動式ビアガーデンできないか。

ビアガーデンをやろうとしたことがあるが、その周辺に住んでいる人に一軒一軒許可を取りに行かなくてはならず、結構ハードルが高かった。例えばビールサーバーを移動式にして、ずっと同じ場所にとどまるのではなく、適当なところで一瞬止まって飲んで、また少ししたら移動して適当なところで飲む。それによって人が外にいる状態を作る。屋台を取り囲んだ何人かが常にうろうろしているような状態。気になった人が後ろからついていって、だんだんその集団が大きくなっていくとか。「何しているのかな」って思いついてきてくれる人とかもいるかもしれない。

ちっちゃい屋台を作るワークショップしている人がいるので、その人と一緒にみんなで日曜大工して、自分の作りたい屋台を作って、それをみんなが引っ張って歩き回るとかができるかもしれない。屋台を引っ張って歩きながら、ある人は

「歴史講座をやります！」とかそれぞれの趣味を話したりできる。許可を取るのが大変なら、スナバの敷地を公開するのもいい。道路じゃないから使用はしやすい。この日だったら使っていていいですよと場所を開放してあげる。みんなが使える場所を開放すると、そういう取組も動くのかな

参加者 J：ポケットパークが最近はやっている。秋葉神社とか駅前の公園とか。商店街のストリートには必要。スナバだと奥に入ってしまう。人に見せるために大門商店街にそういう場所があったら活用しないと。en.to のスペースとか。市が管理している公園とか使えないのか。明確な目的をもって動いている活動なら市的にも良い取組なんじゃないか？

参加者 F：移動式マルシェは面白そう。参加者 E 絵理さんがマルシェをやってくれている。あれだけの人を集めてくれているのは素晴らしい。想像もできないようなすごい話。移動式マルシェみたいなものに出店者を募って組織として継続的にやっていくとか。

ファシリ：マルシェをやるための屋台を自分で作るワークショップをみんなで開いたことがある。自分で屋台を作ってそれをもってマルシェに参加するということにつながった。

参加者 C：作ったら人に見せたい。人の屋台を見たらもっと頑張ろうかなとなっていく。(ワークショップ) マルシェに街の人が参加するとか。その場を一回盛り上げるとか。